

# 風はPLCから

発行・編集：令和7年度1年生

1年次の教職大学院での学びも半年が過ぎ、院生それぞれの探究課題もより明らかになってくる頃、2つの実習がありました。

教職大学院通信第2号では、それぞれの実習の内容や院生の振り返りを中心にご紹介します。

## 重点領域実践実習Ⅰ

離島やへき地にて実習を行い、複式指導や少人数指導についての理解を深める目的で行われる実習です。

今年度は、県総合教育センターでの事前講義1日、各実習先での実習4日の計5日間の日程で行われました。

普段経験することが稀な少人数に対する指導について深く考え、人の温かさを感じる良い機会となりました。

実習期間：10月中旬を中心に4日間

実習場所：出水市内及び龍郷町内の小規模の小中学校



### ★振り返り★

今まで経験したことが無い小規模校での実習を体験することができました。小規模校ならではの授業の工夫や、校風などを目の当たりにすることができ、大変貴重な経験となりました。県内にも多くある小規模校に赴任した際に、きっと活かせる経験になったかと思います。(学部卒院生)

今回、実習先の小学校と附属小学校を結んで遠隔授業を行いました。初の経験だったにも関わらず、子どもたちは自分の考えを堂々と発表して、問題解決を行おうとしていました。子どもの姿を目の当たりにして、教師のやりがい、そして探究と実践の往還の大切さを改めて感じる事が出来ました。(現職教員院生)

## 重点領域実践実習Ⅱ

小中高等学校の現職教員院生やそこでの採用を希望する学部卒院生が行う実習です。

今年度は、5日間の実習を小学部・中学部・高等部に分かれて行いました。個別の教育支援計画や指導計画を踏まえた授業や授業デザインを行い、実践を通して特別支援教育について考えました。

実習期間：11月上旬を中心に5日間

実習場所：附属特別支援学校

### ★振り返り★

特別支援学校での実習を経験したことで、自分の思い込みを取り払い、目の前の生徒と真剣にそして楽しく5日間を過ごすことができました。生徒との関わりの中で悩んだこともありましたが、生徒に寄り添うことで解決できたときはとても嬉しかったです。(中学部にて実習・現職教員院生)

初めは戸惑うことが多く、1週間頑張れるかという不安が大きかったです。しかし、子どもたちと関わる中で、自分の課題に向き合うことができたり、少しだけ踏み出して取り組んだりするなど、私にとって大きな成長につながったと思います。(小学部にて実習・学部卒院生)

## 特別支援教育重点領域実践実習Ⅱ

特別支援学級や特別支援学校に籍を置く現職院生や特別支援学校での採用を希望する学部卒院生が行う実習です。

今年度は、5日間の実習を代用附属小学校の特別支援学級で行いました。特別支援学級に在籍する児童の実態や指導、支援について知り、教科書の内容に沿った特別支援の授業づくりを行いました。



実習期間：11月上旬を中心に5日間

実習場所：代用附属小学校(田上小学校)

### ★振り返り★

これまで知的障害のある児童との関わりがほとんどだったので、日々の関わりも授業づくりも難しいことだらけでした。しかし、交流学級での様子を観たり、教科書をベースにした授業をつくったりすることは、とても新鮮でした。(自閉情緒障害特別支援学級にて実習・現職教員院生)

特別支援学校での実習は経験したことがありましたが、特別支援学級での実習は初めてで、新たに授業づくりや児童との関わり方について担任の先生方・児童から学ぶことができました。(知的障害特別支援学級にて実習・学部卒院生)

## 高度化実践実習 I と 特別支援教育高度化実践実習 I の 成果発表会

高度化実践実習 I は、教育実習の経験も含めた実務経験で得た学びを拡充することを目的として、5月中旬から9月上旬の間、各附属学校にて行われました。

実習では、自らが立てた「授業を中心とした個人の実践に関する課題」と「組織的業務に関する課題」について解決を図っていきました。学部卒院生が行う授業実践は、現職教員院生がメンターとなり、指導案作りや模擬授業、授業研究も行いました。各附属学校の実践を通して、自らの実践を振り返ったり、新たな知見を得たりすることができました。

9月下旬に行われた成果発表会では、実習から得られたことについて、パワーポイントを使って一人ずつ説明をしました。



## 開発実践実習 I と 特別支援教育開発実践実習 I について

開発実践実習 I は、連携協力校等における研修会に参加し、学校で行われている組織的な研究活動の具体的な取組や評価方法等について理解を深めることを目的としています。期間は、年間を通して行います。

具体的な実習先としては、各附属学校、各代用附属学校、県総合教育センターなどが挙げられます。そのほか、県内外で開催される研修会に参加する院生もいます。

特別支援教育の実習では、さらに、県立特別支援学校、県こども総合療育センター、言葉の教室や日本語教室などでの実習も行います。

これらの実習を通して、自らの探究を深めたり視野を広げたりしています。

## 教職大学院Q&A

### Q 夏休みはどう過ごしていますか。

A 教職大学院の夏休みは8月上旬から9月まで約2か月間あります。その間、集中講義や開発実践実習 I、高度化実践実習 I のまとめなどであつという間に日々が過ぎていきます。とはいえ、家族や友人とゆっくり過ごせる時間もあります。

### Q 大学院の勉強は楽しいですか

A 楽しいです。自らの課題意識にもとづき選択した授業を履修していることはもちろん、毎日新しい知識に出会えたり、今までの知識が拡充されたりする実感があるため、毎日学びが楽しくて仕方ありません。課題は決して簡単ではありませんが、今後の糧になっていると日々感じています。

### Q 後期（第3・4ターム）はどんなことをしていますか。

A 後期は、前期（第1・2ターム）と比べると履修の仕方によっては授業数が少なくなります。空いた時間を活用して、開発実践実習 I に出掛けたり、実習の準備や省察をしたりしています。探究課題についてじっくり考える時間もできます。



研究室から見える景色



### Q 教職大学院での不安はどのように解決していますか。

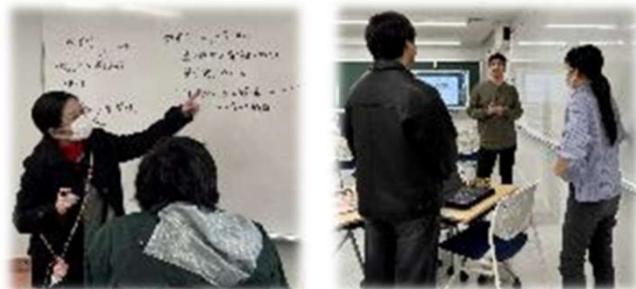
A 生活面は定期的な教育相談があります。各自の探究については先生方に個別指導を受けることができます。



個別指導の様子

## 編集後記

現在院生は、これまでの学びをもとに2月末に行われる中間成果報告会（1年次）や成果報告会（2年次）に向けた準備を進めています。それぞれの探究課題について考え悩みながらも前に進めているのは、語り合える仲間や相談できる教職大学院の先生方の存在があるからこそだと強く感じます。



授業でのグループ討議の様子